

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年12月5日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、斎藤慎太郎		
検証テーマ： コロナ禍の羽田空港、新橋の民間 PCR 検査センターに行列、赤信号の週末の大阪 北海道の感染者、オープニング、イギリスと EU 【特集】 コロナ困窮広がる、【特集】 香港の自由窮地に		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍の羽田空港</li> <li>・ 新橋の民間 PCR 検査センターに行列</li> <li>・ 赤信号の週末の大阪</li> <li>・ 北海道の感染者</li> <li>・ オープニング</li> <li>・ 東京豊島区の女性会社員不明事件</li> <li>・ 障害者施設元職員を入所者への傷害での疑いで逮捕</li> <li>・ 「はやぶさ 2」カプセル分離に成功</li> <li>・ アメリカ下院でマリファナ合法化法案を可決</li> <li>・ 福岡市の市役所地下駐車場を逃げ回るサルをようやく捕獲</li> <li>・ 中村哲さん殺害から 1 年</li> <li>・ イギリスと EU</li> <li>・ 千葉県印西市での女性殺人事件で別居中の夫を殺人の疑いで再逮捕</li> <li>・ 【特集】 コロナ困窮広がる</li> <li>・ 【特集】 香港の自由窮地に</li> <li>・ スポーツ報道</li> </ul>		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍の羽田空港：結論→特に問題なし                      コロナ禍での羽田空港について以下に朱記したような VTR が取り上げられた。                      "79 歳男性 A 「マスクするなり手洗いするなり、消毒するなりさ、できるだけ感染しないように気をつけてなんとか無事に帰りたいと思う、ハハハ。」                      ナレ「政府が呼びかける勝負の三週間、65 歳以上の高齢者や基礎疾患がある人に対し、東京発着の旅行を控えるよう呼びかけられた GoTo トラベルですが、要請から初めての週末となった今日、東京の空の玄関口、羽田空港では旅行者から戸惑いの声が聞こえました。」                      75 歳男性 B 「私は今、年がいきますから思ったんですけど、もうはじめから決めていましたからね、途中でやめるわけにはいかない。」                      62 歳男性 C 「強制したほうが良いとは思いますがね。」                      20 代女性 E 「予防とかをちゃんとして少人数やったらいいんじゃないかなと個人的には思っています。」                      ナレ「該当者が既に予約している旅行をキャンセルする場合は今月 13 日までに申し出ればキャンセル料は国が負担することになっています。」</li> </ul>		

このトピックについて当てられた時間は 64 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・新橋の民間 PCR 検査センターに行列：結論→特に問題なし

新橋の民間 PCR 検査センターについて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"ナレ「新型コロナについて、東京都が今日、新たに発表した感染者は 584 人、先月 27 日の 570 人を上回り、過去最多を更新しました。」 こうした中、東京市名波市では。」

重松大輝（報告）「新橋駅前にできた新型コロナ PCR 検査センター、雨にも関わらず列ができています。」

ナレ「昨日開業した民間の PCR センター。2900 円で検査を受けられるということで、店の外まで行列ができていました。」

利用者 A（60 代）「親に会いに行くために、結果がちゃんと陽性じゃなくて陰性であれば会いに行けるかなと思って来ました。」

利用者 B(20 代)「値段が安い分、気軽に受けられるのでいいかなと思っています。」

ナレ「検査方法は唾液を採取するだけで翌日には結果がわかるということです。」 "

"岡橋博行（コロナ検査センターマネージャー）「現在使用している機会・薬剤に関しましては通常病院と同等のものを使っておりますので、制度としては病院と変わらないというものだと。」

ナレ「予約は毎月 9 日まではいっぱいだということです。」 "

このトピックについて当てられた時間は 80 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・赤信号の週末の大阪：結論→特に問題なし

週末の大阪について以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"ナレ「一方、独自の基準で非常事態を示す赤信号を点灯させた大阪では昨日 394 人の新規感染者を確認、重症病床の使用率は 67.5%ですが、実際に運用されている重症病床の数で見ると運用率は 84.8%と逼迫した状況です。」

街の声 A「町中に出てきたけれども、やっぱり少ないです、ずっと。いつもの週末と比べたらどうしても必要なお歳暮が。もう普段の出でこないようにしようと持っていますけどね。」

街の声 B「ええ、愛知から来るまで来ました。なるべく人が密集しているところは避けて、まあちょっと穴場的なところでも探したらと思っています。」

ナレ「こちらのたこ焼き店では不要不急の外出自粛要請もあり、地元の客が特に減っていると言います。」

店主「いやぁガクッと減りますね、今週末はさらに 3 割減とか 4 割減とかになると思います、で、ここ乗り切つて収まってくれたらまた年末年始良くなってくれたらなと思うんですけども。」 "

このトピックについて当てられた時間は 71 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・北海道の感染者：結論→特に問題なし

北海道の感染者について以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"ナレ「一方、北海道の今日の感染者は 183 人、拡大に歯止めがかからない旭川市は新たに 27 人の感染が確認されたと発表しました。このうち 9 人はクラスターが発生している旭川厚生病院の看護師や職員です、病院の発表で今日までの感染者は 221 人で、国内最大のクラスターに広がっています。同じようにクラスターが発生している慶友会吉田病院の感染者も 183 人になりました。」

旭川市民 A「医療関係者の方は本当に頑張っているとは思うんですよ、実際的に」

旭川市民 B「早くね、このことが収まってほしいことを願うだけですよねえ。」

ナレ「一部の外来では不要不急の外来診療を極力控えるよう呼びかけていて、北海道第 2 の都市に医療崩壊の危機が迫っています。」

このトピックについて当てられた時間は 60 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・オープニング：結論→特に問題なし

番組の冒頭で金平キャスターが「ええ、今年の流行語大賞に三密が選ばれました。その発表イベントに受賞者として小池東京都知事がオンラインで登場して『知事、おめでとうございます』という司会者の言葉を受けて、にこやかな表情を浮かべていました。一体何がめでたいんでしょうか、特集でコロナの深刻な影響を考えます。」とコメントしていた。

このシーンに当てられた時間は 23 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・イギリスと EU：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「イギリスのジョンソン首相と EU ヨーロッパ連合のフォンデアライエン委員長はイギリスの EU 離脱後の通商関係などについて大詰めの競技をするため 5 日にトップ会談をすることになりました。」とのコメントを受けて、VTR が取り上げられるとともに、ナレーションによって「イギリスは今年 1 月に EU からりだつ、今月 31 日までの移行期間中に将来の関係について合意できなければ関税が復活し物流などのいい気な混乱が生じる可能性があります、しかし、双方は未だ公平な競争、紛争解決、漁業の分野で合意には至っていないようです。そのため交渉を一旦やめ、ジョンソン首相とフォンデアライエン委員長が 5 日午後、会談することになり事態は大詰めに迎えています。」とのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 50 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 コロナ困窮広がる：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「特集です。新型コロナの収束が見えない中、生活の困窮を訴える人が急増しています。年を越せない、と訴える深刻な声、何が起きているのでしょうか。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられた。

ナレ「先週、東京都庁のすぐ脇で、ホームレスなど生活に困った人を支援する NPO もやいのスタッフらが食料を袋詰していた。袋の中にはバナナやトマトの他、マスクやカイロなどが入っている。それを求めて、密を避けながら行列を作る人の数はおよそ 190 人、去年の同じ時期の二倍以上だという、第三波が拡大する中、支援を求め人に変化が起きているという。」

金平茂紀「今の一番の特徴というのはなんですか。」

大西連（自立生活サポートセンターもやい理事長）「30代、20代、40代の方を中心に多いですね、去年とかはどちらかと言うと働けない状態になった方が相談に来られることが多かったんですけども、今年は全然健康でバリバリ働いていましたっていう人が失業をして、次の仕事の中々見つからない、そのなかで貯金がどんどん崩れていく、で、色んな政府の支援制度とかを利用したいけれどちょっと条件が合わないとか、そういうことで困ってくる方が多いですね」

金平茂紀「そうすると全体でいうと裾野が広がったっていうか。」

大西連「仰るとおりですね、本当にいろんな業種、色んな年代の方に広がっていて、特にそれが女性だったり若い年代の方にも広がっていますね。」

"ナレ「1日の死者数が過去最多となる中、昨日、菅総理が二ヶ月半ぶりに会見を開いた。」

菅義偉（総理）「これまでも申し上げてきていますように、国民の命と暮らしを守る、これが政府としての最大の責務です。」

ナレ「その日の生活もままならない人達も増えている、今何が起きているのか。」 "

(CM)

"ナレ「今年9月、北海道札幌市でテイクアウトの焼き芋屋を始めた34歳男性、」

焼き芋屋を始めた男性（34歳）「心機一転っていうか、まあオープンしたばかりなんで、テイクアウトの店なので皆さん気にせずっていうのはアレですけども、店内で食べる飲食よりもこういったテイクアウトの店のほうが、波がないというか。」

ナレ「去年12月、男性は繁華街ススキノで居酒屋を始めたばかりだった、だが、コロナの影響で客は激減、わずか4ヶ月で閉店を余儀なくされた。」

男性（34歳）「オープンとか、この、鍋、せいろとかですかね、後ほとんどグラスとかは家にあってもしょうがないんですけども、」

ナレ「開業にかかった費用はおよそ100万円、このオープンは中古で70万円近くしたという。」

男性（34歳）「オープンして、そこから1、2ヶ月後くらいか、緊急事態宣言出して、人通りも少なくなってきた、その予約のお客さんが段々無くなってきて、一週間立ったら倍くらいキャンセルが続いて、それ以降は本当に全部キャンセルでした。」

ナレ「集客のため、毎日店の外でチラシ配りをしたが訪れる客は殆どいなかった。」

男性（34歳）「給付金のその申請もあるじゃないですか、うち元々やったばかりだからその成績がないんですね、だから最低限のお金しか出ないというふうに言われたんで、えって、この資料とこの資料とこれが足りない、でまた書いて、また役所言って、でこの間仕事をしているからそれだけ頑張っただけの金額だったらじゃあ諦めるかっていう人が多いと思ひ明日。」

ナレ「給付金に頼ることもできなかった男性はハローワークに通い、雇ってくれる飲食店を探した。だが、コロナ禍で新たな働き口は見つからなかった。借金の返済と生活費を稼ぐため先輩のつてを頼って建設会社で日雇いの仕事を始めた、そのための資金で焼き芋屋をオープンさせた、男性には離れて暮らす家族がいる、店が軌道に乗ったところで一緒に暮らすはずだったが、今はそれもできない。」

男性（34歳）「いや、寂しいっすよまじで。月一回は会おうと言ってたんですね、次11月会う予定がまた出て、それで結局ダメになって、次はいつになるのかなという感じですね、ぶっちゃけて今は人の心配していてられないですからね。飲食の人は特に、コロナって本当に見えない敵だから自分をどう鼓舞するかの毎日、戦いですからね。」 "

ナレ「新型コロナウイルスの関連倒産が増え続け、中でも飲食店は過去最悪のケースだ。完全失業者数も毎月増加し、10月は215万人と前年の同じ月と比べて51万人も増えている。」

"膳場貴子「失礼します、こんにちは今日よろしくお願ひいたします。」

ナレ「埼玉県でアパレル関係の会社を経営する50代の男性、コロナの影響で売上が減少し始めて9ヶ月、今最も追い詰められているという。」

アパレル業の男性「今は本当にもうとにかくお金がないので朝食べない昼食べない、夜一食、みたいとにかく切り詰めるところは切り詰めてっていう感じでやっていますけれども、今年になって10キロくらい減りました。」

ナレ「男性の仕事は洋服を販売するメーカーから依頼を受け、材料などを手配して縫製工場に発注、納品する仲

介業だ。しかし、外出自粛の影響で洋服を買う人が激減、会社を立ち上げて19年で最も売上が少なくなっていたという。」

アパレル業の男性「頃名前は年間で大体1億円くらいやっていたんですけど、4月で3万2千円ですよ。」

膳場貴子「ここで本当にガクっと一気に来たんですね、で翌月が一回ゼロになってしまっ。」

アパレル業の男性「そうですね、どうしても下請けなのでお客さんから滞りしか無いんですよ、自分でなにか作って売ってという作業ができないものですから。」

ナレ「5月以降、持続化給付金や家賃支援給付金でおよそ270万円の給付を受けたが、銀行への返済や従業員への給料などですぐに底をついた。その後も業績は回復せず、都内に構えていた事務所も家賃が払えなくなり引越、従業員も解雇せざるを得なくなった。」

"膳場貴子「ご家族の生活も変わりました。」

アパレル業の男性「8月に離婚しているんですよ、僕、収入がなくなってしまったので、お家に入れる生活費というのをほとんど、入れられなくなってしまったんです、でずっと収入がないないないっていうとやっぱりギスギスしてしまって、だったら生活をちょっと分けて僕は僕でとおいたほうが良いかな、精神的にも。」

ナレ「更に男性を追い詰めるのは、」

アパレル業の男性「請求書の山ですね。」

膳場貴子「これまだ未処理のものってことですか。」

アパレル業の男性「未処理のもの、終わっているものもありますね、一瞬、分けなきゃわからなくなるなと思って。」

膳場貴子「いつからのものですか。」

アパレル業の男性「ここのやつはここ半月くらいです、開けられていない。」

ナレ「机の上だけでなく床にまで広げられた請求書の数々、銀行からの借入れや保険料、公共料金まで種類も様々だ。早急に支払いを求める書類も数え切れないほど溜まっていた、なぜここまで滞ってしまったのか。一時は支払いを猶予してくれる救済制度を活用し、なんとか持ちこたえていたというが。」

アパレル業の男性「まあ支払い関係は少し3ヶ月も伸ばしましょう、とか半年間猶予を持ちますよだとかっていう感じでお話しただけだったので、それはそれですごく助かりました。ただやっぱりその時期から今、一括で猶予していた分返済してくださいとか、まあ会社によるんですけど、それが大体先月くらいから始まっているんで、もうちょっとそれもそれでやりくりが追いつかなくて、もう、もうちょっとしたら自己破産しなきゃって感じですよ、。」

ナレ「コロナ第三波が拡大する中、これまで返済や支払いを猶予してくれていた金融機関からも催促を受けるようになった。」

アパレル業の男性「期日通りに払えていないところに関してはたくさん来ますね、ちょっと1日でないということになると留守電だけでも何十件と入る。二十件とか軽く来ますね、電話なるのもちょっとノイローゼになりそうです。」

"ナレ「中でも貸貸保証会社からは。」

アパレル業の男性「ちょっとなんていうか威圧的、と言うか。」

膳場貴子「凄んできたり、なんかちょっと。」

アパレル業の男性「そうですね、払うのか払わないのかどっちなんだよとか、で払えないんだったらすぐでて行けど、もっとすごい口調ですね。」

ナレ「コロナの収束が見えない中、年末にかけて増えていく支払い。」

膳場貴子「ここに立ってみて、政府であるとか自治体であるとかに期待すること、要求すること、要求したいことって。」

アパレル業の男性「給付金だとか家賃の支援とかしていただいて本当に助かっているんですけども、実際問題それだけでは本当に回らないので、一回もうそういう支援をしているから大丈夫だろ、と言うふうにとぶん思っているのかなと言う気がしないでもないですね。本当に今、年末越せるか越せないかという人は山ほどいると思うので、そこをちょっと見てもらえるとありがたいですね。」

ナレ「そして今、内定取り消しも相次いでいる。」

(CM)

"ナレ「コロナが収束しない中、今、若者への影響も深刻だ、厚生労働省がまとめた今年の新卒者の内定取り消しは9月末現在で去年の六倍近い201人にのぼっている。200人を超えたのは東日本大震災が起きた2011年以来9年ぶりだ。大阪府に住む22歳の男性、都内のIT企業に内定し、今年3月に大学を卒業、社会人生活への期待に胸を膨らませていた。」

男性(22)「東京で一応IT企業のエンジニアとしておそらく現場入ってコードを書いたりとか仕事をしてスキルどんどん上がっていったんじゃないかと思ったんですね。内定取り消しという概念すら正直知らなかった、わかんなかったくらいですね。」

ナレ「入社日を目前に控えた3月末、東京では新型コロナの感染者数が急増、不安になった男性が内定先に問い合わせたところ、」

男性(22)「入社日延期とか内定取り消しとか、それで気になって問い合わせたところ無期限の入社日延期ですという通達されました。もう給料も出ないという話だったので、生活として本当に難しいですね、ひたすら貯金がなくなっていきながらもできることは勉強しか無いなっていうことで勉強をなんとか奮い立たせてやっていました。」

"ナレ「男性は未経験ながら技術職として採用されたため、仕事に行けない間も貯金を切り崩して参考書などを書いて、独学でプログラミングの勉強をしていたという。そして、5月末、入社前の研修という名目で呼び出された。」

男性(22)「まず研修課題が未経験歓迎という企業が出すようなレベルのものを出してきて、まあ全然解けないと、質問対応者はずっと電話していて、でその電話も怒鳴っていて、中々こう質問しづらいし、毎日面談があるんですけども、その面談でなんでもっと質問してこないのと詰めてきて、1日目には一人やめて、2日目には二人やめて、3日目の朝研修に来たのは私だけでしたね。」

ナレ「更に男性も人事担当者からこう言われたという。」

男性(22)「コロナの影響でIT企業も結構仕事なくなっている、だから今回は採用を見送らせてくれというふうな内容でした。全くあんまりなくて、ただでも働かせてくださいと言ったんですけども、君は全然実力がないからダメだという話をどんどんして行って、その時は青ざめる感覚はすごいありましたね、本当にコロナが蔓延する東京で無職で一人で宿もなくてという状況は絶望しかなかったです。」

ナレ「会社の寮に住んでいた男性は仕事と住む家を失い、大阪の実家に戻って就職活動を始めた、しかし、100社ほど応募しても面接までたどり着けたのはわずか5社。コロナ禍の再就職は容易ではなかった。結局男性は派遣会社に登録し、大阪市内のIT企業で派遣社員として仕事が決まった。男性は今後さらに厳しい状況が来たときにも備えていきたいと話す。」

男性(22)「フリーでも暮らしていけるくらいのスキルとか経験とかを身に付けていこうと考えています。大学生の時は本当にまあこの会社でゆっくり過ごせたら良いなとか、そういう割とのんきな考え方だったんですけども、それがかなり一変したなと思います。」

"ナレ「コロナ禍の前から支援が必要だった人への影響はより深刻だ。NPO 法人もやいの事務所を訪ねた。そこにはたくさんの遺影が置かれていた。」

金平茂紀「これは。」

大西連「我々保証人とかもやっているんで、その中でご家族とかがまあお骨を引き取れないとか、全然ご縁が切れている方とかいう方に関しては埋葬したりとか葬儀をしたりということもやっているんで、まあそれでその関係の方ですね。」

金平茂紀「この方っていうのは 48 歳ですよ。」

大西連「そうですね、まさに」

金平茂紀「今年の 9 月でしょ。」

大西連「そうですね本当に。」

金平茂紀「この方も、10 月じゃないですか」

大西連「孤独死とかこの間亡くなられる方が相当増えている印象があって、コロナの影響でデイサービスとかデイケアとか、そういう見守り的な活動とか地域の居場所がすごく閉じていて、まあ孤立の問題というのがすごく感じていますね。」

ナレ「今年 4 月以降もやいが保証人をしていた生活困窮者少なくとも 5 人がなくなっている。"

"深刻化する生活の困窮。専門家は既に始まっていた社会構造の大きな変化にコロナが追い打ちをかけたと指摘する。」

大内裕和（中京大学教授）「本当に 30 年前と比べると貯蓄ゼロの世帯というのが激増しているんで、まあ同じ所得であっても税金と社会保険料の上昇で手取りが減っていますからいくらかでも非正規で家庭を支えている人はいっぱいいるし、そうなるちょっとした現象がね、収入減少がね、致命的になってしまっている、全体覆うような支援というのを考えないとこの状況は乗り切れない、と思います。」"

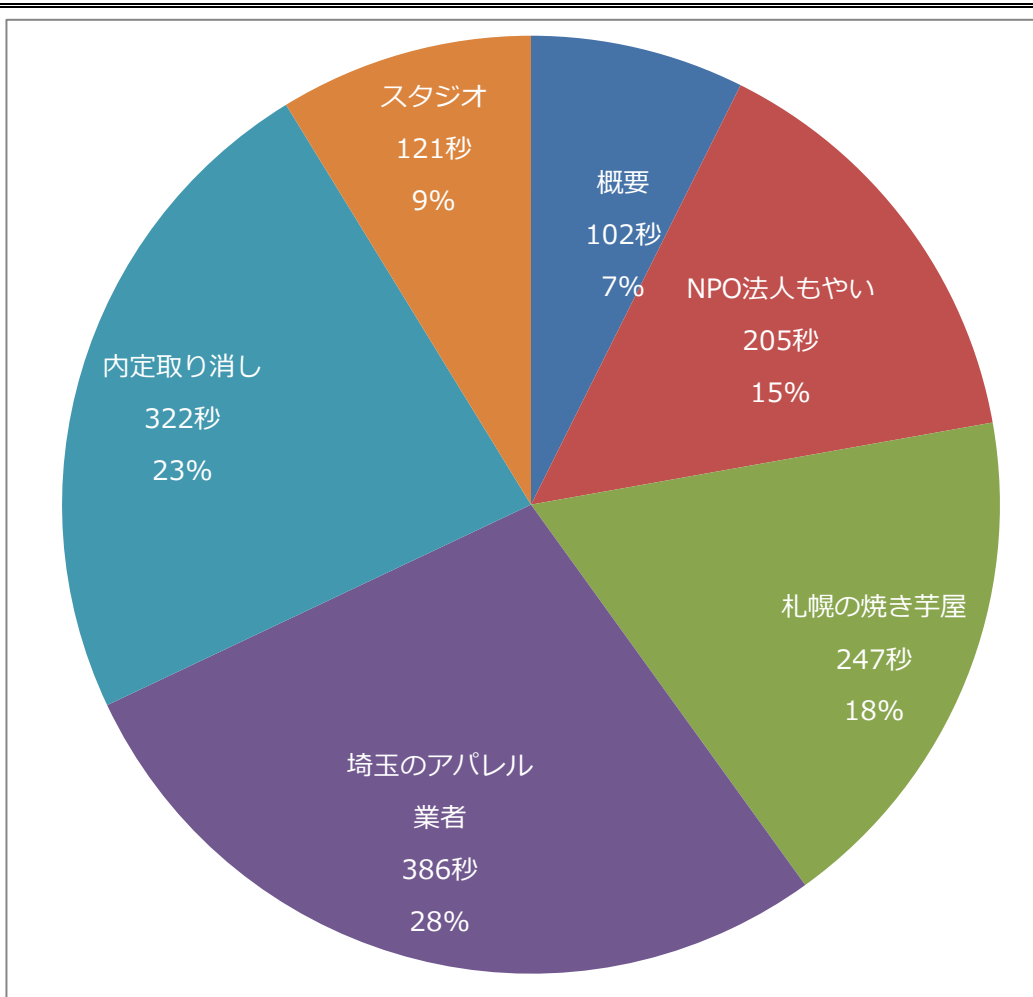
VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り返された。

"膳場貴子「私がお話を伺ったのはアパレルで 19 年もの実績がある経営者の方でしたけれどね、コロナの影響がこれほど広範囲で長期化して足元から生活が崩れてしまうという人が続出しているんで支援策が GoTo に偏っている現状を非常に疑問視されていましたが、支援をする人がこれだけね、置き去りにされているいびつな現状というのを私もなんかおかしいなと身を持って感じました。しかもね、様々な支払いの猶予期間が猶予措置が区切りを迎えている、今待ったなしになっている今、じゃあ政府はどれだけの危機感を持っているのかなと思って昨日の総理会見を聞いてみましたが物足りなく思わざるを得なかったですね。」

日下部正樹「今ですね、医療や介護といった命を守る現場、これの経営状況も非常に深刻なわけですけどもどうも永田町から聞こえているのは GoTo、GoTo ばかりですね。」

金平茂紀「あの、そこに登場してきたのは GoTo とは無縁の人たちですよ、そういう人たちがたくさんいる中でその、もやいのリーダーの大西さんにお話をお伺いしたらね、生活困窮者に対してずっとこれまで炊き出しですよ、で、今、コロナ禍なんで鍋とかそういうのはできないので、そのパッケージにした食料配布とか相談会を都庁の脇でやっていたところですね、その都庁の敷地のところにですね三角コーンとね、それからバーをそこにかけて、東京都庁の敷地に入ってこれないように排除されているみたいですね、これ今日の映像ですよ今日も食料配布やったんですけども、こうやって中にはいってこれないようにしているというのは、これね、今日の寒空雨の降った後の寒空で沢山の人が並んでいる時にもう少し血の通った対応っていうのをできないものなのかなと強く感じましたね。」"

このトピックについて当てられた時間は 1383 秒で時間配分および比率や以下の通りであった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 香港の自由窮地に：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「では次の特集です。今週さまざまな政治的事件が起きた香港です。」とのコメント、日下部キャスターの「若者への厳しい実刑判決。民主派議員の政治亡命。そして香港メディアの重要人物、レイ・チエイ氏の不可解な基礎拘留。その拘留直前、報道特集のインタビューに答えました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したようなVTRが取り上げられていた。

ナレ「年の瀬も迫った香港が揺れている。」

周庭さん（字幕）「まだ見ぬ未来とこれから言い渡される判決に不安を感じています。」

ナレ「若者に下された厳しい実刑判決。」

ナレ「抗議活動の中心を担ってきた民主派議員が海外への亡命を宣言した。」

民主派議員の声明「亡命は移住ではありません。香港のために生きることを約束します。」

ナレ「中国を批判し続けた香港メディア界の大物が、勾留された。勾留直前、報道特集のインタビューに応じていた。」

黎智英氏（字幕）「どうか香港の人々のために祈ってください。世界に関心を持ってもらうことが必要です。」

ナレ「世界で最も開かれた都市。香港。この街の繁栄を支えてきた様々な自由。法の支配が、風前の灯火だ。」

（CM）

ナレ「今週水曜、香港の西九龍裁判所。」

民主派（字幕）「頑張れ！一人じゃないよ。」



ナレ「人々がエールを送るのは、この日判決を言い渡される 3 人の若者たちだ。」

ナレ「カメラは裁判所へ向かう彼らの様子を捉えていた。」

ナレ「黄之鋒さん、24 歳と、林朗彦さん、26 歳。周庭さん、23 歳。護送車の中を捉えた写真には、うつろな視線を向ける彼女の様子が映っていた。」

ナレ「新型コロナ対策だとして 3 人以上の集会は厳しく取り締まられるようになったが、法廷に入れなかった多くの支持者が裁判所前で判決を待った。」

支持者（吹替）「重罪にならないといいね。香港の未来のために行動してくれたい子達なんだから。」

3 人が所属した政治団体のメンバー（吹替）「このまま監獄に入れられるのを見たくありません。まだ自由の身の私たちはできる限りの努力をしなければなりません。」

ナレ「厳罰を求める親中派の人々の姿もあった。」

親中派（吹替）「裁判官が正義を下すのだ。」

民主派（字幕）「お金をもらってこんなことしてるんでしょう。」

民主派（字幕）「周庭は香港の光だ。」

ナレ「周庭さんら 3 人が罪に問われたのは、去年 6 月の抗議デモについて。」

デモ隊（字幕）「暴政だ。」

ナレ「中国本土への容疑者の引き渡しを可能にする逃亡犯条例の撤回を求めている市民らが警察本部を包囲した。」

デモ隊（字幕）「警察本部を包囲せよ。」

ナレ「周囲にこう呼びかけていた周庭さんたちは、デモ隊を扇動したなどとして起訴された。」

ナレ「そして先月 23 日、身柄が拘束された」

周庭さん（字幕）「まだ知らない未来とこれからの判決に不安を感じますが、まだ私達より犠牲になっている方々がもっと厳しい状況に立ち向かっています。」

周庭さん（字幕）「私たち以外の彼らのことも、皆さんは忘れないで下さい。」

ナレ「裁判所が下した判決は、以前の香港では考えられない厳罰だった。」

判決文（吹替）「より犯罪抑止に効果がある刑罰が必要で、即時収監は唯一正しい判決である。」

ナレ「裁判所は、黄さんに禁固 13 ヶ月半、林さんに禁錮 7 ヶ月。周さんには、禁錮 10 ヶ月の判決を言い渡し即時収監を命じた。」

ナレ「傍聴席で裁判の行方を見守っていた周庭さんの日本人の友人は。」

日下部「判決。禁固 10 カ月、これを言い渡された時の周庭さんの様子はどうだったですか？」

周庭さんの友人 りえさん「ただもう、頭を抱えて泣き崩れて立ち上がれなくなってる感じで。横にいた職員の方が支えて、外に一緒に出ていった感じでした。あのように泣き崩れるような状態、プライベートでも見たことがないです。本当に、もう本当に見てられなかったです。辛すぎて。」

周庭さん（YOUTUBE 動画）（字幕）「今日から tiktok を始めます。」

ナレ「これは拘留される 2 週間前に周庭さんが公開した動画だ。」

ナレ「日本の人気アイドルグループの曲にのせて踊る周庭さん。しかしその後、画面が突然切りかわり・・・」

ナレ「映し出されたのは、警察に制圧される香港の若者たちだ。」

ナレ「周庭さんは、ダンスの映像に交えて、政治的なメッセージを動画共有アプリ tiktok に投稿。」

ナレ「これまで中国の企業が運営する tiktok は、セキュリティをめぐる問題から、使わないと公言してきたが、」

周庭さん（字幕）「tiktok を使っている人達は、私が普段 Facebook や Instagram で接触できる人たちではな

い。この方法はこの人たちに、香港で起きていることを理解させられるのか、検討してもいいんじゃないかと思  
います。」

ナレ「これまで様々な SNS を駆使して発信を続けてきた周庭さん。しかし今年 8 月に国家安全維持法違反の疑  
いで逮捕されて以降、心身に急激な変化が表れていたという。」

周庭さんの友人 りえさん「じんましんがひどかったり、精神的なものだと思うんですけど、体が痛い。食欲も  
ない。食べても体重が落ちていって、頻繁に会っていても目に見えて痩せていくのがわかるって言う、それはす  
ごく心配でしたね。それでも多分 YouTube とか撮影するのは気分転換になっていたと思うんで、すごく楽しそ  
うに、やってるなどは思ってましたけど、だんだんだんだんこう内面は重圧が増えていくようには、感じました。」

ナレ「周庭さんは先週、留置場から不安な思いを綴り、友人に託していた。」

周庭さんが寄せたメッセージ「判決の日が近づくにつれ、私はかなり緊張し、怖くなっています。1 日も早く、  
正義が戻り、24 歳の誕生日も外で過ごせることを願っています。」

ナレ「しかし、禁錮 10 ヶ月の判決が言い渡されたのは誕生日の前日。願いは叶わなかった。」

男性（吹替）「感じるのは怒りだけ。この怒りは抑えられない。」

女性（吹替）「この判決はとても失望しました。」

ナレ「護送車が拘置施設へと向かう。」

民主派（字幕）「応援してるから。あきらめないで」

ナレ「去年の 6 月以降、抗議デモに関連して一万人以上が逮捕され、そのうち 2000 人以上が、起訴されている。  
多くの香港人は取り締まりの恐怖を前に、声を上げ続けている。」

ナレ「判決について問われた中国外務省の報道官は、」

記者（字幕）「(判決について) コメントはありますか？」

中国外務省 華春エイ報道官（字幕）「それは外交問題ではありませんよね。」

ナレ「香港研究の第一人者、倉田徹教授は、今回の判決について、」

倉田氏「扇動罪とは言いますが、彼らの存在によって、集会が起きたということも多分言えないんですね。  
あくまで自発的に集まってきた人々の中で、彼ら彼女らの声がちょっと大きかったというその程度のことだとは思  
います。」

倉田教授「それに対して 10 ヶ月の懲役刑を課したというのは、民主化運動や社会運動に対して、より強く当た  
ると言うことの表れであるという風に思いますね。」

倉田教授「特にその若い人、学生などが、1000 人 2000 人というような単位で検挙されているというのは、彼ら  
の世代全体に対する大きなおどしというわけだと思いますね」

ナレ「そして、先月、ついに矛先は議会に向けられた。中国の全人代常務委員会は香港立法会の議員が、独立を  
主張したり、中国政府への忠誠を誓わなかったりした場合、(議員) 資格を失うと決めた。」

ナレ「その日のうちに香港政府は、民主派議員 4 人の議員資格を剥奪した。」

林鄭月娥行政長官（字幕）「4 名、心から香港基本法に従わず、中国に忠誠を誓わない議員がいる。彼らの議員資  
格はないものと定められた。」

ナレ「抗議した他の民主派議員 15 人も、一斉に辞職を表明し、議会から民主派議員が姿を消した。」

ナレ「親中派議員が、議席を独占する議会になったのだ。」

ナレ「資格を剥奪された民主派議員の 1 人、梁継昌氏は、」

日下部「香港のですね、様々な自由において、非常に問題のある出来事だと思うんですけども、」

民主派 梁継昌前議員（吹替）「とても驚きました。前代未聞です。なぜなら中国政府が単なる行政命令で、民主

的に選ばれた香港の議員の資格を、剥奪したからです。これは一国二制度に対しての衝撃です。」

日下部「もう政府の動きを監視する機能がですね、今の立法会にはない。そう言っていていいと思うんですけども、いかがですか？」

民主派 梁継昌前議員（吹替）「今後市民は、親中派の議員だけになった議会に何の意味があるのか見定めることになります。」

民主派 梁継昌前議員（吹替）「親中派の議員は、多くの市民の意向に背いた法律でも、通ることになりますから。」

ナレ「議員資格の剥奪だけにとどまらない。香港では、議員が政治亡命するまで追い込まれている。」

ナレ「警察とデモ隊に割って入り、仲裁をしているのは、民主派議員だった許智峯氏。警察は議員のゴーグルを剥ぎ取り、催涙スプレーを発射した。デモを扇動していたわけでもなく、仲裁に入った許氏が、警察よって制圧された。」

ナレ「議員辞職した許氏は、滞在先のデンマークで、政治亡命することを宣言した。」

許智峯氏の声明（吹替）「私は、香港のために何ができるのか、自問してきました。議会に残り、専制政治に対抗するため、わずかに残った議員としての仕事をしようと、最善を尽くしてきましたが、もうそれはできなくなりました。亡命は移住ではありません。私は香港のために生きることを約束します。」

ナレ「権力を監視してきたメディアへの圧力も、強まっている。」

ナレ「今週火曜、香港のケーブルテレビ、香港有線テレビは、1300人の従業員のうち、100人の大量解雇を発表した。会社側は表向きには、経営難によるリストラと説明しているが、スタッフ全員がリストラの対象となった番組があった。」

ナレ「報道番組、ニュース刺針。親中派議員への票の買収や、中国寄りに書き換えられた教科書の検証など、政治や社会問題の調査報道を専門にしている、数々の賞を獲得してきた。」

ナレ「社員の記者たちは幹部らに説明を求めた。その内部映像を入手した。」

幹部（吹替）「私たちは刺針をなくそうとしたわけじゃなくて、どの報道部員でも刺針と同じ仕事ができると思っている。これは立て直しの過程です。」

社員（吹替）「立て直して、刺針のスタッフを全員クビにすることが一番良い方法だと思ったんですか？」

社員（吹替）「これはニュースになりますよ。決定する前に私たちと話し合いもしていないじゃないですか。」

幹部（吹替）「話すチャンスがなかったんですよ。」

社員（吹替）「解雇されたのは仕事の出来る人達ばかりです。刺針は全員クビ。一番優秀な記者と、1番編集が速い人もクビになりました。理由が聞きたいです。」

幹部（吹替）「個人個人については言えません。こんなにも人がいてカメラもたくさんある中で。」

ナレ「同僚の不可解なリストラに、抗議の意思を示すため、中国ニュースを担当する記者など、他の報道部員が、相次いで辞表を提出した。」

ナレ「この件について、倉田教授は」

倉田教授「やはりこれは、政治的な圧力ということを想像するのが普通だと思います。今回のことが起きる直前に、この有線テレビでは、経営幹部の入れ替えがあったんですね。そこで比較的親中派と思われる人物が、人事の大きな権限を持つようになりまして、そのこともおそらく影響しているというふうに考えられます。」

ナレ「手錠をかけられ、護送車から降りる男性。民主派の重鎮で、地元紙アップルデイリーの創業者、黎智英氏だ。」

ナレ「今年8月、国家安全法違反の疑いで逮捕され、保釈中だったが、おととい不可解な詐欺罪を理由に起訴され、来年4月までの勾留が決まった。背景に政治的な意図があると指摘されている。」

黎智英氏（字幕）「出頭時に起訴されなければ、延長される可能性が高い。」

ナレ「身柄が拘束される3日前、黎氏は、報道特集のインタビューで、保釈は延長されるだろうと楽観的な様子を見せていた。」

黎智英氏（字幕）「しかしゆくゆくは起訴されることになる。それがいつになるのかは分かりません。政治的に適切な時期を、待たなければならないかもしれません。」

ナレ「黎氏が考えてもみなかった詐欺罪での身柄の拘束が決まった。」

ナレ「中国共産党に、批判的な論調のアップルデイリー。黎氏が逮捕された際には、本社にも異例の大規模な家宅捜索が入った。」

日下部「アップルデイリーの記者たちは、今の状況の中で、こう非常にプレッシャーを感じてるんですか今？」

黎智英氏（字幕）「我々はなおも活動を続けていますが、逮捕されるかもしれないという恐怖が、影としてのしかかっている。これは言論の自由ではない。今はその恐怖を抱きながら、やりたいことをし、言いたいことを言わなければなりません。」

日下部「こうやって、日本のメディアとジミーさんがですね、こういったインタビューをするということは、非常にジミーさんにとって、不利なことなんじゃないでしょうか？」

黎智英氏（字幕）「危険なことです。私にとってインタビューを受けるというのは、外国人との共謀となるので危険です。しかし私は続けざるを得ません。もし私が後に引けば、私を見ている香港の人々も、後に引かなければなりません。声を出せるかぎり、香港の苦境に世界の注目を集められるかぎり、私はそうしなければなりません。私にはそうする義務があるし、香港は私の祖国なので、私にとっては避けられない使命なのです。我々は香港守らなければなりません。」

ナレ「昨日付のアップルデイリーの1面には、『黎智英は政治犯として囚われた。』という見出しと共に、拘束された黎氏の姿が。そして 牢屋を模した自由の文字。」

アップルデイリー購読者（吹替）「いずれ勾留されるとは思っていました。デモをしたのはこれからなくなりそうな自由を守るためでした。しかしこれは一番見たくなかった結果です。よりによってそれが現実になりました。」

アップルデイリー購読者（吹替）「香港はおかしくなってしまいました。救いようがありません。法治社会ではなくなりました。」

ナレ「黎氏は、世界の人々に向けてこう語りかけた。」

黎智英氏（字幕）「希望は常にある。奇跡を信じれば 我々は信じていますが、希望は常にあるものです。我々が戦い続けるのは、勝つと思うからではなく、人間としての誠実さと、自尊心を維持することが、我々にとって非常に大事だからです。どうか香港の人々のために祈ってください。我々にあなたの声や関心が必要だし、世界に関心を持ってもらうことが必要です。」

VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。

膳場「あの自由だった香港で若い世代がこうして問答無用で捕らえられていく様子ってのはもう、ほんとにショック受けますよ。」

日下部「周庭さんにしても初犯ですしね。本来なら社会奉仕程度で済む話なんですよ。ただこれが終わりではなくてね、去年6月から1万人以上が逮捕されていて、2000人以上が起訴されている。多くの若者が含まれているわけですけど、香港の人口わね、750万人ですから、若い世代にとっては相当な比率になるわけですよ。さらに死刑制度がない香港で最高刑がですね、終身刑の国家安全維持法の基礎も始まるわけですよ。若い世代にほんとに心身ともに傷を残すことになるんじゃないかと心配してます。」

金平「まああえて日下部さんにお聞きしたいんですけども、香港のメディアで今起きていることというのは、よ

その国の他人事なんですか？」

日下部「あのね、今我々見ているのは、開かれた自由社会が急速に崩壊していく。そういうことを目の当たりにしているわけですね。香港の人が最近よく言うのは、自由はですね、空気のように当たり前のようにあるものだと思っていたけれども、それは違った誤りだった。日本だけが例外であるということは絶対ないと思います。」

このトピックについて当てられた時間は 1431 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】 コロナ困窮広がる

アパレル業者を取り上げたシーンでアパレル業者の「まあ支払い関係は少し3ヶ月も伸ばしましょう、とか半年間猶予を持ちますよだとかっていう感じでお話しいただけたんで、それはそれですごく助かりました。ただやっぱりその時期から今、一括で猶予していた分返済してくださいとか、まあ会社によるんですけども、それが大体先月くらいから始まっているんで、もうちょっとそれもそれでやりくりが追いつかなくて、もう、もうちょっとしたら自己破産しなきゃって感じですよ」というコメントが取り上げられていたが、アパレル会社を営んでいるのであれば、会社の経営破綻と個人としての自己破産は全くもって地続きの話ではなく独立した問題である。

というよりも、経営状況の悪化であるとか経営破綻をしたところで出資者や経営者へのダメージを限定的に抑えることができることこそが「法人」という制度の魅力であり利点である。そうであるにも関わらず法人の経営破綻が経営者の自己破産に直結するというのは本来ならばおかしな話である。

勿論、法人の経営破綻と経営者の自己破産が直結するような仕組みがあるからアパレル業者の男性も「もう、もうちょっとしたら自己破産しなきゃって感じですよ」とコメントしているのだろう。しかし、そうした事情というのは中小企業を経営した経験であるとかそうした人が身近にないとわからない、視聴者の多くはピンとこない問題なのではないだろうか。

法人の経営破綻と個人の自己破産を繋いでいるものについて、取り上げなければ経営者がコロナに苦しむということとは十分に伝わらないのではないだろうか。

GoTo についてはコロナ対応の際に政権側が散々「外出自粛」などと訴え、ある意味では観光業や飲食業に対する営業妨害をしてきたわけであるから、それに対する贖罪という意味合いもあるのではないだろうか。

ところで VTR で中京大学の内裕和教授の「本当に 30 年前と比べると貯蓄ゼロの世帯というのが激増しているので、まあ同じ所得であっても税金と社会保険料の上昇で手取りが減っていますからいくらかでも非正規で家庭を支えている人はいっぱいいるし、そうなるちょっとした現象がね、収入減少がね、致命的になってしまっている、全体覆うような支援というのを考えないとこの状況は乗り切れない、と思います。」とのコメントが取り上げられていたが、「税金と社会保険料の上昇で手取りが減っています」というのは全くもってそのとおりであるが、それでもなお支援が足りないというのであれば、もはや日本には今の人口をそのまま維持するだけの基礎体力がない、ということではないだろうか。

また、ここで国債を発行して支援を充実するとしたところで、結局それはいずれ返済する必要があるということで、それは結局のところ現役世代の将来負担増を意味しているのに過ぎないのではないだろうか。そうした負担増に見合った恩恵を現役世代が受けることができるのだろうか、そうした見込がないのであればその場しのぎ

の財政支援というのは控えたほうが良いのではないだろうか。

・【特集】香港の自由窮地に

スタジオでの金平キャスターの「まああえて日下部さんにお聞きしたいんですけども、香港のメディアで今起きていることというのは、よその国の他人事なんですか？」とのコメントをうけて、日下部キャスターは「あのね、今我々見ているのは、開かれた自由社会が急速に崩壊していく。そういうことを目の当たりにしているわけですね。香港の人が最近よく言うのは、自由はですね、空気のように当たり前のようにあるものだと思っていたけれども、それは違った誤りだった。日本だけが例外であるということは絶対ないと思います。」とコメントしていたが、そもそも日本のメディアというのは「自由」なのだろうか。

例えば、検証者である私が公共の電波を用いテレビ局を様々な地域に開設し、報道番組や教育番組あるいは娯楽番組などを放送したい、そうしたビジネスを営みたいと考えたところで、それを自由に行うことは不可能である。あくまでも、自由というのは既存のテレビ局にあるだけであって、新規参入をする自由など全く保障されていないわけで、既得権益側の金平キャスターや日下部キャスターの語る「メディアの自由」というのはどうにも白々しく聞こえてしまった。